

消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成26年12月1日(月)～12日(金)

山形/モニター世帯数: 515世帯
有効回答数: 477世帯(回答率: 92.6%)
秋田/モニター世帯数: 391世帯
有効回答数: 357世帯(回答率: 91.3%)

消費指数

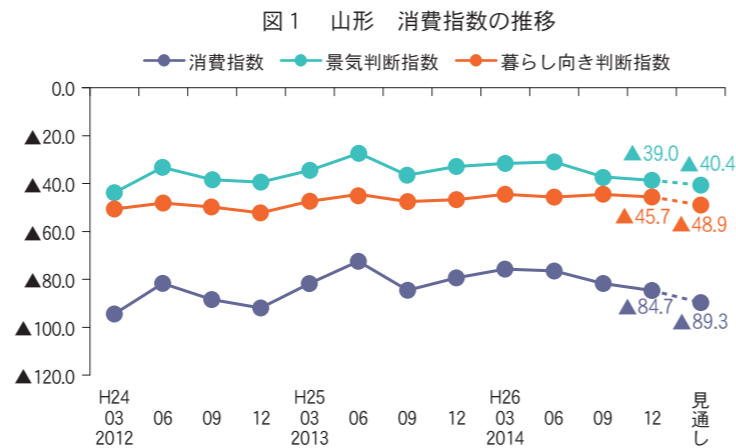
第34回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは3期連続で悪化～

消費指数は、▲84.7(前期比2.8ポイント下落)と3期連続で悪化した。内訳は景気判断指数が▲39.0(前期比1.5ポイント下落)と2期連続で悪化し、暮らし向き判断指数が▲45.7(前期比1.3ポイント下落)と若干悪化した。

今後の見通しは、消費指数が▲89.3(今回調査比4.6ポイント下落)とさらに悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲40.4(今回調査比1.4ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲48.9(今回調査比3.2ポイント下落)と、いずれも悪化の見通しとなっている。

依然として、物価上昇や消費税増税による負担感が重く、消費マインドは悪化傾向を示している。



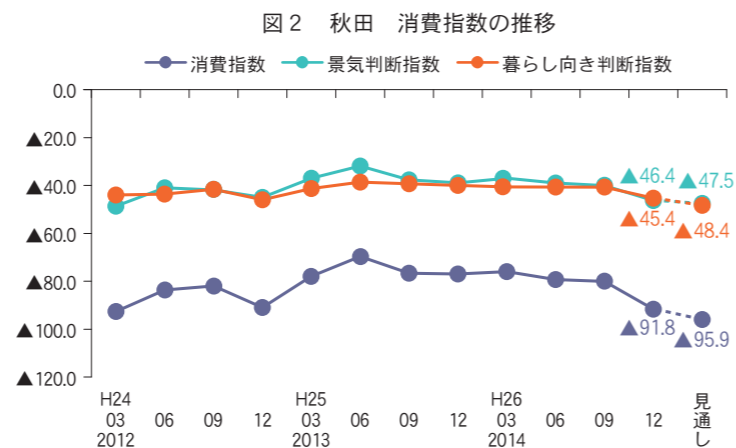
第14回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは3期連続で悪化～

消費指数は▲91.8(前期比11.8ポイント下落)と3期連続の悪化となり、マイナス幅を拡大した。内訳をみると、景気判断指数は▲46.4(前期比7.2ポイント下落)、暮らし向き判断指数は▲45.4(前期比4.6ポイント下落)とともに悪化している。

今後の見通しは、▲95.9(今回調査比4.1ポイント下落)と悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲47.5(今回調査比1.1ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲48.4(今回調査比3.0ポイント下落)とともに悪化の見込みとなっている。

山形県同様、消費マインドは悪化傾向を示している。



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとり)の4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

景気と暮らし向き

景気判断

山形の景気判断指数は▲39.0(前期比1.5ポイント下落)と2期連続で悪化した。景気判断指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」が▲9.7(前期比2.2ポイント下落)、「雇用環境」が▲5.7(前期比0.9ポイント下落)といずれも2期連続で悪化した。「物価(日用品)」は▲23.6(前期比1.6ポイント上昇)とやや回復したものの低水準で推移しており、依然として物価上昇への警戒心は強い。

秋田の景気判断指数は▲46.4(前期比7.2ポイント下落)と3期連続で悪化した。指数を形成する個別指数では3項目すべてで悪化となり、中でも「景気(県内)」は▲13.4(前期比4.4ポイント下落)と悪化幅が大きくなっている。また、改善傾向で推移していた「雇用環境」は5期ぶりに悪化に転じ、「物価(日用品)」はわずかな悪化にとどまったものの、依然として低水準となっている。

暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲45.7(前期比1.3ポイント下落)と若干悪化した。暮らし向き判断指数を形成する4つの指数については、「暮らしのゆとり」が▲13.8(前期比0.2ポイント上昇)と若干回復したものの、「世帯収入」が▲10.5(前期比0.7ポイント下落)、「保有資産」が▲12.1(前期比0.6ポイント下落)、「お金の使い方」が▲9.3(前期比0.2ポイント下落)といずれも若干の悪化となっている。

秋田の暮らし向き判断指数は▲45.4(前期比4.6ポイント下落)と3期連続で悪化した。指数を形成する個別指数も4項目すべてで悪化となった。中でも「お金の使い方」が▲8.7(前期比1.8ポイント下落)と3期連続で悪化し、平成23年9月の調査開始以来最も低い指数となったほか、「世帯収入」も▲10.7(前期比1.4ポイント下落)と2期連続の悪化となった。

家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が431千円と前年同期比で7千円の減少なり、支出面では支出合計が430千円と前年同期比で32千円の増加となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は99.7%となり、前年同期に比べて8.9ポイントの上昇となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が493千円と前年同期比で79千円の増加となり、支出面では支出合計が417千円と前年同期比で51千円の増加となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は84.7%となり、前年同期に比べて3.8ポイントの減少となった。

図3 山形 景気判断指数(内訳)の推移

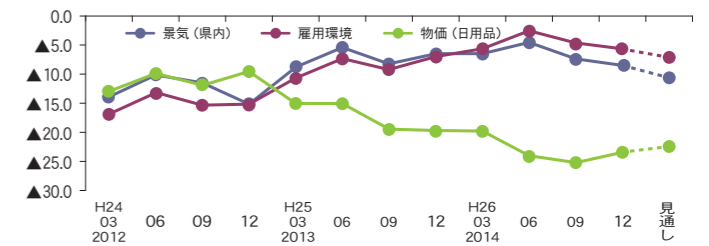


図4 秋田 景気判断指数(内訳)の推移

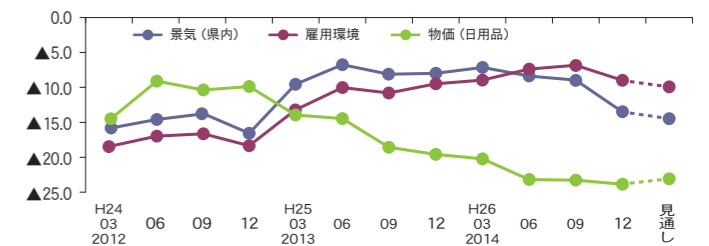


図5 山形 暮らし向き判断指数(内訳)の推移

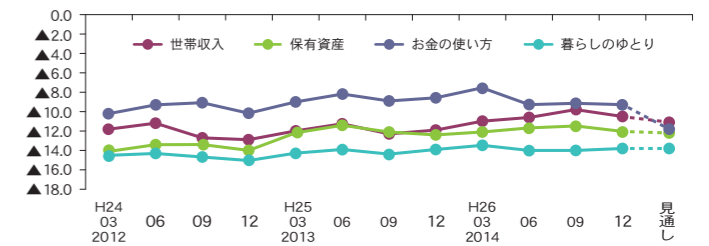


図6 秋田 暮らし向き判断指数(内訳)の推移

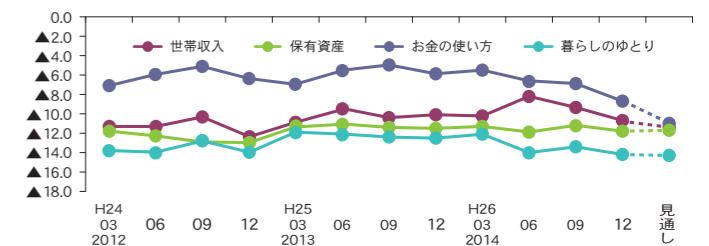


図7 山形 家計収支と平均消費性向の推移

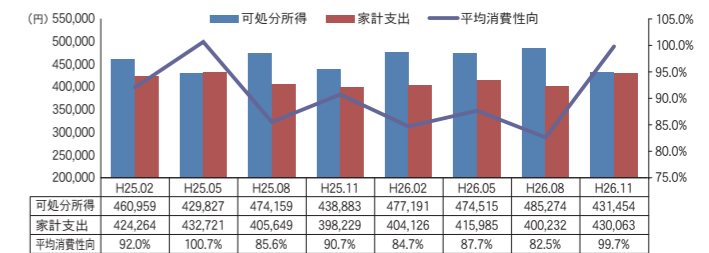


図8 秋田 家計収支と平均消費性向の推移

